

教育委員会だより

私たちの大切な宝である子どもたちが、夢や希望を持ち、持続可能な社会の創り手となるよう、教育委員会や各学校はさまざまな取り組みを行っています。その「今」を紹介します。

未来の大牟田について語り合い、学び合い、つながろう ～ユネスコスクール・SDGs/ESD交流会～

教育委員会と各市立学校は、世界遺産、環境、福祉、まちづくりなど、地域の特色を生かしたESD（持続可能な開発のための教育）を進めています。我が国のESDをリードしてきたまちとしてさらにステップアップするため、昨年度から「ユネスコスクール・SDGs/ESD交流会」を開催しています。

今年度は8月20日に「未来の大牟田について語り合い、学び合い、つながろう！」をテーマに開催しました。

学校関係者だけでなく、企業や各種団体、市職員、学生などのさまざまな分野から100人以上が参加しました。

交流会のメインであるワークショップでは、参加者がそれぞれ6人ほどのグループをつくり、「大

牟田の未来を持続可能なものにするにはどうすればよいか」という課題に向き合いました。

各グループでは、

- ◆ 世界遺産
- ◆ 防災・減災
- ◆ キャリア
- ◆ 福祉
- ◆ 食文化
- ◆ 環境
- ◆ まちづくり

のいずれかのテーマで、この課題を解決するために「自分の立場でできること」や「協力できること」、支援できること」などについて話し合つとともに、それぞれの思いや考えを共有しました。

また、若い世代の教員や会社員、学生なども多く参加し、さまざまな年齢や立場の人たちによる活発な意見交換の場となりました。

ワークショップでの意見

◆ 子どもたちが地元の企業でさまざまな体験をすることで、「ここで働きたい」という思いを持つことができ、「地産地消」の大切さを知ることができるようではないか

◆ 子どもたちの学びを支える「企業バンク」をつくり、全学校で共有してはどうか

◆ 大学などで学んだことを伝えることで、子どもたちが、自分の進路について考えたり、将来の自分の姿につなげたりする手助けができるのではないか

教育委員会は、この取り組みをきっかけに大人同士が協働することとで、子どもたちの未来と持続可能なまちづくりに向けた活動が盛んになるよう、今後も支援していきます。



子どもたちの未来と持続可能な大牟田のまちづくりに向けた、貴重な意見交換の場とすることができました

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



福岡教育大学の石丸哲史副学長により「大牟田のSDGs/ESD これまでの成果とこれからの課題」と題して基調講演が行われました

総合教育会議を開催

10月26日に総合教育会議が開催され、市長と教育長・教育委員が小中一貫教育制度の取り組みなどについて協議しました。

教育委員会は、今年3月に「大牟田市小中一貫教育基本方針」を策定し、順次、全ての中学校区に小中一貫教育制度の導入を進めることとしています。

今年度、宮原中学校区（宮原中・駛馬小・天の原小・玉川小）では、来年4月の導入を目指し、制度の試行を本格的に進めています。小学生と中学生の交流や、スクールソーシャルワーカーと地域学校協働活動推進員が宮原中学校区内に常駐して活動していることによる成果などが報告されました。

この他、学校教育について活発な意見交換が行われ、課題や今後の方向性について共有しました。



市長と教育委員会が大牟田の教育と子どもたちへの思いを共有しました

中学生の思いの結晶が完成しました！

「橘中学校生徒考案スイーツ」「橘クロえもん」商品化

橘中学校では、2年生の1学期に「総合的な学習の時間」で、地元企業の職場見学や職場体験をしていましたが、新型コロナウイルスの影響を受けて、実施が難しくなっていました。

そのような中、子どもと地域の大人との「対話」を通じたまちづくりプロジェクト「ジュニアシティメーカー」の活動を行っている一般社団法人「OMUTABRIDGE」（オオムタブリッジ）からの提案で、昨年度の2年生は、校内で実施可能な「働く」をテーマにした体験学習を行いました。

昨年度の1学期、地元の企業や店舗経営者の方々へのアドバイスを受けながら、地元産の農産物を使った新しいスイーツの商品企画に取り組みしました。そして、見た目は石炭、中のクリームに上内みかんを使った「石炭シュー」が校内でグランプリを受賞しました。

その後、「さらに活動を進めていきたい！」という意欲をもった9人の生徒たちにより、商品として磨き上げ、実際に販売することになりました。

思いを一つにした生徒たちは、商品、広報、デザインのチームに

分かれて、主体的に「対話」を重ね、大人の協力を得ながら商品開発を進めました。

そして「石炭シュー」の黒いシュー皮はそのままだに、中のクリームには福岡県産「あまおう」を使い、夕日が有明海に輝く「光の航路」を地元産のみかんを使ったジュレで表現し、愛らしい目玉が付いた「橘クロえもん」がついに完成しました。

生徒たちは、昨年11月13・14日に市内商業施設のイベントで、今年1月22日に大牟田駅西口広場で「橘クロえもん」を販売しました。あつという間に完売し、生徒たちは、主体的に取り組んだ成果と達成感を味わうことができました。

この「橘クロえもん」は、商品開発に協力をいただいた市内の洋菓子店で商品化されて販売されることになり、9月29日に市役所で報告会が開かれました。3年生になった生徒たちも出席し、代表の生徒は、「この活動を経験させてもらい、将来、大牟田のまちおこしにつながるような仕事をしてみたいと思っています」と力強く語りました。

主体的に頑張った生徒たちの創

造力と行動力、それをサポートした大人の理解と協力が、大牟田の未来を切り拓く希望の力となることでしょ。



大牟田の特産品を使い、生徒たちの思いを形にしたスイーツができました



活動を通して成長した生徒たちの頼もしい姿が印象的でした

■問合せ 教育委員会事務局総務課
教育みらい創造室（☎412867）